

会 議 事 録

1	会議名	令和4年度長岡市教育委員会事務評価委員会
2	開催日時	令和4年7月1日（金）午前10時から午前11時40分まで
3	開催場所	さいわいプラザ 4階 教育委員会会議室
4	出席者名	<p>（委員）</p> <p>熊倉委員長 渡辺副委員長 武石委員</p> <p>（説明のために出席した職員）</p> <p>金澤教育長 安達教育部長 水島子ども未来部長 小熊教育部副参事 水島教育総務課長 吉田教育施設課長 青木学務課長 佐山学校教育課長 小畑学校教育課主幹兼管理指導主事 稲毛学校教育課主幹兼管理指導主事 玉木学校教育課主幹兼管理指導主事 梅沢中央図書館長 深澤子ども・子育て課長 大久保子ども家庭センター所長 恩田保育課長</p> <p>（事務局）</p> <p>江田教育総務課長補佐 内藤教育総務課庶務係長 今井教育総務課主査</p>
5	欠席者名	なし
6	議題	<p>(1) 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について</p> <p>ア 教育委員会会議の開催及び審議状況等について</p> <p>イ 教育委員会における事務の点検・評価について</p> <p>(2) その他</p>
7	審議結果の概要	資料に基づき、令和3年度に教育委員会が実施した各種事業等について、担当課長が委員に説明し、委員からの質問に回答した。

8 審議の内容	
事務局	1 開会
教育長	2 教育長あいさつ
事務局	3 事務局職員紹介
委員長	4 議事 (1) 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について ア 教育委員会会議の開催及び審議状況等について ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答 なし イ 教育委員会における事務の点検・評価について ■ 4つの重点項目の取組状況及び今後の展望 【コミュニティ・スクールの推進】 ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答
委員	(意見) 資料の中の表記に「教職員の負担を軽減」という言葉が出てくるが、教職員の負担を軽減するために実施することが主目的ではないため、例えば、「地域と学校のすべきことをすみ分ける」等、別な表現に置き換えたほうがよい。
事務局	(回答) 委員のおっしゃる通り、地域ぐるみでの取組を行っていくことが主目的であるため、表現を改めたい。
委員長	(意見) 「学校と地域の優良な関係を維持しながら」とあるが、「優良」よりも「良好」とした方がよいと思うがいかがか。
事務局	(回答) そのようにさせていただく。
委員長	(意見) コミュニティ・スクールは、平成16年頃の導入時になかなか進まなかった経緯があったと感じている。その理由として、学校運営協議会の権限の中に校長の運営方針に対する承認や人事に関することがあり、学校長の考えがうまく学校運営に反映できないのではといった懸念があった。また、地域との連携による業務の増加も懸念材料となり、現場が尻込みしたと感じている。平成29年の法改正で実施が努力義務化さ

	<p>れた際は、学校長の裁量を汲みながら実施する部分が出てきたことで、そういった懸念が軽減された。また、努力義務化により、長岡市も大きく踏み出してきたと感じている。</p> <p>長岡市は、コミュニティセンターとの連携やこれまで築いてきた学校評議員との良好な関係がある。それらを踏まえたうえで、各地域に合った方法で、良好な関係を維持させながら発展させるという長岡独自のスタイルをとっていただければと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>(質問) 令和3年度から配置されたCSディレクターについて、その職務や人選、運用状況、活用の見通しを聞かせていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(回答) 人選は各地域に一任している。職務としては、会議の運営や、地域に向けて活動の情報発信を担っており、教員経験者や地域のバイタリティのある方が任命され、活躍している。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>(質問) CSディレクターの人選は、地域内の人に限定されているのか。 (回答) 限定はしていない。</p>
<p>委員</p>	<p>(質問) 地域内で適任者が見つからなければ、地域外からの人選もあるということであれば、人材バンク的なものがあると学校も人選に困らないのではないかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>(回答) そういったフォローアップ体制も今後整えられるといいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>(回答) コミュニティ・スクールは、特に都市部において、学校と地域がうまくつながらない、学校が地域から閉ざされているといった問題があり始まったものであり、開かれた、地域と共に歩む学校の実現のために形を整えたものがコミュニティ・スクールのスタートだった。</p> <p>一方で、長岡市には以前から各校の教育活動を地域の方々と一緒に行う取組がたくさんあり、実態として、既にコミュニティ・スクール的な活動が行われていたと認識しているが、その中で、長岡市の取組として不足している部分が二点あると考えている。一点目は、それぞれの協力者が、学校がどういう子どもを育てようとしているかのコンセンサスを共有していなかったことである。今後は、学校運営協議会の中で、学校の教育方針を理解しながら協力体制を整えていくことができるため、大きな力になると考えている。また、二点目として、地域との良好な関係が築けているが、属人的な面があり、この校長だから、この地域の中心的人物がいるからうまくいっているという面があった。そういった関係</p>

委員	<p>を持続的なものにするには、ある程度の組織化が必要だという意識の中で、また、大きな流れの中でコミュニティ・スクールに取り組むことは長岡市にとって意義があるという判断で全市展開にむけて踏み出した。委員長から、「長岡方式」という話をいただいたが、長岡市としては、一律にこういう方針で実施しなさいということはず、各校の現在の動きを持続して、各学校でやりやすいように実施することとしている。</p> <p>(意見) 自分も地元の学校運営協議会の委員になっている。先日初めての会議があったが、まずは学校の運営方針を共有することを第一の目的として会議が開催され、自分たちは、それを地域の人達に共有していく任務があると思っている。また、協議会の中で、部活動の指導ができる人材の情報提供をすることとなった。教職員の働き方改革にもつながることであるので、地域の中で指導者に適した人を学校に情報提供できるような人材バンク的な取組を行っていく。</p>
委員長	<p>(意見) これまでも学校評議員会で学校運営方針の説明はあったが、開催時期が9月と年度末であり、どちらかというと学校の評価の説明が主となっていたが、学校運営協議会ができたことで、年度当初に運営方針を共有する場ができ、よかったという声も聞こえてきている。そういった部分で成果や効果が表れてきているのではないかと思う。</p> <p>【学校と地域の協働による部活動の体制整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答
委員	<p>(質問) スポーツ部についてはモデル事業等の取組を実施しているが、文化部の状況はどうか。</p>
事務局	<p>(回答) これからの検討である。国の方針や有識者委員会の提言の内容を見てからとなる。</p>
委員	<p>(意見) 長岡はリリックホール等の市民に開かれた文化施設があるため、文化部についても、長岡らしさを活かした取組ができると思う。</p>
事務局	<p>(回答) 吹奏楽部や合唱部についても、土日の地域移行が求められているため、土日の練習場所の確保などを丁寧に取組んでいきたいと考えている。</p>

教育長	(回答) 文化部の検討に関しては、令和3年度は文化団体等にオブザーバーという形で検討委員会に参加してもらっていたが、今年度は、市の文化振興課と長岡芸術文化振興財団から正式に検討委員会の委員として参画してもらっている。
委員	(意見) 文化部においてもOBの活用や交流を積極的に行っていると聞くため、例えば、高校に進学後も母校を訪れて交流をするような環境づくりが全体に波及していくといいと思う。また、過疎地の学校では、部活動が成り立たなくなっているという話を耳にすることがあり、部活動のために学区外通学をするといったケースもあるため、オンラインの活用を取り入れる等、交流の仕方や実施方法などを検討してほしいと思う。
委員長	(意見) 部活動の地域移行については国の検討も進んでおり、全国的な課題となってきている。地域との呼吸を合わせながら着実に進めていきたいと思う。
	<p>【Edu-Diver 構想の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答
委員	<p>(意見) ICT サポーターとして、学校のオンライン化の取組を現場で見させていただいているが、取組は着実に進んでいると実感している。各校で様々な方法を努力して実施しており、それらが事例として共有されることで各校での今後の検討に活かされているところであり、全体の動きとしてはよい方向に進んでいると感じる。不登校の児童についても、タブレットを持ち帰り、「あうるの森」等の不登校支援団体を通して児童の指導やタブレットの活用をしてもらうことで学習の遅れ等を補っているといった事例も耳に入っている。そういう中心となる団体からいい動きが派生していると思う。</p> <p>また、現場で感じることとして、中学校において、教職員のタブレットの使い方の講習会等がしっかりできている学校は生徒のスキルも向上するが、そうではない学校もあるため、ICT サポーターの活用を積極的に行ってもらえればよいと思う。</p>
事務局	(回答) 研修受講や意見交換等を通して教職員がタブレットの使い方を習得してきている。また、ICT サポーターが月2回学校を訪問し、アプリの使用方法等を指導しており、少しずつ時間をかけてスキル向上を図って

委員	<p>いきたいと考えている。</p> <p>(意見) 中学生になると、心の問題も大きく関わってくる。動画を撮影して課題を提出する授業で、なぜ自分が映らなくてはならないのかといった葛藤が生じたりしたケースもあり、タブレットの活用が広がってきたからこそ見えてくる課題もある。そういった場合の心のフォローや、道具としてタブレットをどう使っていくかの検討も必要になってきていると感じる。</p>
委員長	<p>(意見) まさに、今後は「個々の状況に応じた」取組が必要になってくるということである。</p>
委員	<p>(意見) 今後の課題の中に、視力の低下についての問題も触れられており、とても良いと思う。</p>
委員長 事務局	<p>(質問) 「Edu-Diver」という言葉は、長岡独自のものか。</p> <p>(回答) Education (教育) と、Diversity (多様性) を組み合わせ、多様な教育環境の実現を表す造語として独自で作成した。</p>
委員長	<p>(意見) 「GIGA スクール構想」や「個別最適な学び」といった国の掲げる施策を正面から受け止めた構想である。それを、具体化する施策の柱として掲げることは、非常に筋がいいと思う。ぜひ積極的に推進していただきたい。</p> <p>【教職員の働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答
委員長	<p>(意見) この取組は数年がかりのものであり、徐々に教職員の意識も変わってきているのではないかと思う。市の方針として、朝と放課後の電話対応可能時間を設定し、保護者に周知したようだが、効果はどうか。</p>
事務局	<p>(回答) 啓発の取組の一つとして、朝は7時45分以降、夕方は小学校は6時20分、中学校は6時50分までを電話受付時間として周知した。緊急連絡はどうしても生じることもあるが、周知を凶ったことで保護者の意識も少しずつ変わってきており、その点は令和3年度の成果の一つとなっている。</p>

<p>委員長</p>	<p>(意見) 入電時間が限定されることで教職員の負担感が随分減ると聞いている。また、欠席の連絡を C4th (校務支援システム) で行うことで、電話対応時間が大幅に軽減され事務効率が上がっていると聞く。働き方改革の目的は、教職員が児童生徒に向き合う時間を増やすことであるため、ぜひ推進して行ってほしいと思う。</p> <p>■教育委員会の実施した事業の点検・評価について</p> <p>【施策1 郷土愛の醸成による人材の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答
<p>委員</p>	<p>(質問) 「子どもふれあいサポート事業」において説明のあった「心ふれあい相談員」には資格要件等はあるのか。</p>
<p>教育長</p>	<p>(回答) 資格は不問である。実態として、元教員や元養護教諭が相談員となるケースが多い。また、地域のコミュニティセンターに勤務していた方が務めているケースもある。</p>
<p>委員</p>	<p>(意見) 相談員は専門的な知識や多くの情報が必要であることが多いため、心ふれあい相談員について、どういったものであるのか記述があるといい。</p>
<p>教育長</p>	<p>(回答) 心ふれあい相談員は、学校内で学校関係者以外の第三者に相談できる体制があるといいというところから始まったものである。子ども・青少年相談センターの相談員のような専門性はないが、専門的相談につなぐ等、相談の入り口となる役割を担っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>(質問) 今の回答により、評価書の記述の追加は不要としてよいか。</p>
<p>委員</p>	<p>(回答) 問題ない。</p>
<p>委員</p>	<p>(質問) 心ふれあい相談員の配置は、学校からの希望制か。</p>
<p>教育長</p>	<p>(回答) 適応指導教室が配置されていない学校に重点的に配置し、専門的な相談に繋げるようにしている。</p> <p>【施策2 保幼小中連携による一貫した教育の推進】</p>

<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答 <p>(質問) 保幼小の接続期の連携はこれまでも実施してきたものだが、そこに中学校まで含めたことは大きい進歩だと感じる。小学校から中学校へ進む際に、複数の中学校に分かれる場合や、複数ある小学校と中学校の接続がうまくいくのかが懸念されるが、導入状況はいかがか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(回答) 12年間という長期間にわたっての接続となるが、中学校区で一まとめとし、それぞれの学区で育てたい子どもの姿を共通のスローガンとして掲げ、同じ目標に向かって子育てをしていくこととしている。また、中学校区を超えて別の学校へ行く場合も想定されることから、「ながおか夢タクト」を補完教材として活用し、保護者の思いも含めた個人毎の子どもの育ちの記録を活用することとしている。</p> <p>【施策3 オール長岡で子どもを育む教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答 <p>なし</p> <p>【施策4 子ども・子育て支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答
<p>委員長</p>	<p>(質問) 「子どもの貧困対策推進事業」において、学習塾等の利用に係る経費の補助について説明があったが、募集・選考の手続きはどのような流れとなっているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(回答) 制度の周知については、学校を通じて中学校3年生の全生徒にチラシを配布し、利用者を募っている。利用申請は希望者が市に直接行い、子ども・子育て課で審査を行い、補助を決定している。令和3年度は100人分の枠があったが、審査に漏れたケースはない。</p>
<p>事務局</p>	<p>(回答) 子どもの貧困対策としての事業であるため、中学校3年生の全生徒が対象となるわけではなく、一定の所得制限等があるが、要件に合致していれば対象となる。周知については、対象者にチラシを配布することとはせず、全員に平等に案内をしている。</p>
<p>委員</p>	<p>(意見) 子ども食堂について、資料には令和3年度の新規開設数が5か所</p>

事務局	<p>であることの記述があるが、開設済みの団体の運営支援もしているため、安定的運営のための補助も実施できたということを表記するとい</p> <p>い。</p> <p>(回答) そのようにさせていただく。</p> <p>【施策5 質の高い教育を実現する教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答 <p>なし</p>
委員長 事務局	<p>【6 教育振興基本計画に記載のない施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答 <p>(質問) 今後、新しい水族博物館の検討が進むということか。</p> <p>(回答) 大きな課題として、国が進めている大河津分水路の拡張工事に係り、津波対策を含めた湾岸の埋め立ての計画等があり、そういった工事との関わりや寺泊港との関わりがある。一方で、建物の老朽化が進んでいるため、可能な限り検討を進めるよう努力していく。</p>
委員 事務局	<p>■長岡市教育振興基本計画に掲載した参考指標一覧について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき事務局が説明 ・質疑応答 <p>(意見) 「学校・園の視点」の部分について、定量的な数値が記載されているが、数値や件数だけを追うのではなく、その取組の満足度がどう評価されているかの割合などがあるといい。</p> <p>(回答) この部分はあくまでも参考指標ということで、数値を定量的に記載することとしている。取組内容やその評価については、その前段の各事業の取組・成果の部分で記載することとしている。</p>
委員長	<p>その他、全体を通しての意見等はあるか。</p>
委員 事務局	<p>(質問) 事務評価書には参考指標も掲載することとなるのか。</p> <p>(回答) そのとおりである。</p>
委員長	<p>(意見) 前年までの文字中心の表記と比較し、全体のボリュームは増加し</p>

たが、表形式となり見やすくなった。また、重点項目を抜き出して掲載したことで、教育委員会が力を入れて取り組む事業がよくわかり、非常に改善がされたと感じた。

(2) その他

- ・事務評価委員の意見提出について

集約した意見の調整については、私と事務局とで調整するということがよいか。

異議なし。

5 閉会

(出席委員の署名欄)

9 会議資料